

孔子廟堂碑

漢字の書 楷書

唐・628～630年頃／虞世南（558～638）

（教科書 32～35 ページ）



概要・特徴

中国・唐の第2代皇帝・**太宗**が、儒教振興のため、唐の都・**長安**（現在の陝西省西安市）に孔子廟（孔子を祀った建物）を再建したことを記念して建てられた碑である。儒教の祖である孔子とその教えのすばらしさや、孔子廟を建立したことの意義を説く内容が書かれている。**虞世南**が碑文の作成、書写ともに担当した。70代前半の頃の作と見られ、虞世南の作品として信頼できる唯一のものとされる。原碑は建てられて間もなく火災によって失われ、その後いくつか重刻碑が作られた。現在、**西安碑林博物館**（陝西省）に収蔵されているものはその一つで、**陝西本**とよばれる。

伸びやかな点画や向勢がもたらす、温和で格調高い、自然体の書風である。

作者について

虞世南（558～638）は、隋・唐の官僚。書の名手として知られる「**初唐の三大家**」、「**唐の四大家**」の一人。字（別名）を**伯施**とい、**越州余姚**（現在の浙江省）の出身である。衣服の重みにも耐えられないほど痩せ細った体であったが、芯が強く、決して正論を曲げることがなかったといわれる。隋の煬帝に仕えた後、唐に迎えられ、太宗に重用された。王羲之の子孫である**智永**に書を学び、その書風を継承したと伝えられる。さらに、**王羲之**を中心とした晋代の名家の書をよく学び、その正統を受け継いだ。



時代背景

唐の第2代皇帝・太宗は、官僚制を整備し、儒学や文学を奨励するなどして、300年続く唐王朝の基礎を築いた。この安定した治世は「**貞観の治**」とよばれる。太宗は博学で文芸に通じ、書に堪能であり、王羲之の書を愛し広く収集したことでも知られる。太宗に仕えた官僚に、**虞世南**・**欧陽詢**・**褚遂良**（初唐の三大家）がいる。